

今週のメニュー

■トピックス

◇統計でみる塩化ビニル樹脂産業の1年

■随想

◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記（9）

ーヨルダン・ハシミテ王国いろいろ（その1）ー

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

◇統計でみる塩化ビニル樹脂産業の1年

1. 塩化ビニル樹脂

2019年の塩化ビニル樹脂(以下塩ビ)の生産量は168万9千トン(対前年比102.8%)、総出荷量は169万7千トン(同104.5%)であった。

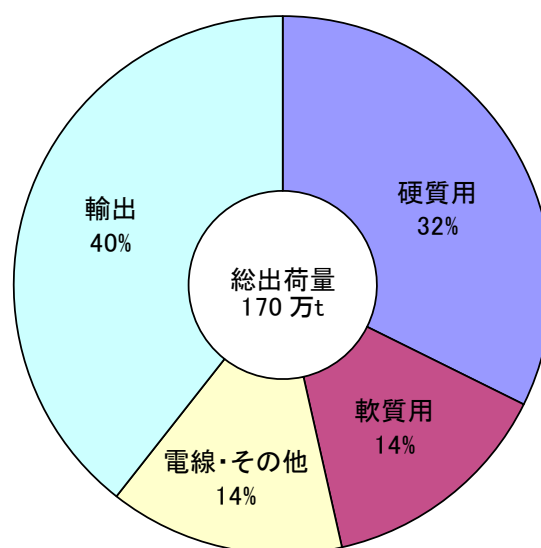
総出荷量の内訳は、国内出荷量103万1千トン(同97.9%)、輸出66万6千トン(同116.8%)、国内出荷量の内訳は、硬質用54万4千トン(同97.4%)、軟質用24万2千トン(同96.2%)、電線・その他用は24万5千トン(同100.5%)であった。また、主要輸出先はインド(44万8千トン)、中国(9万2千トン)、ベトナム(8万9千トン)で全体の約85%を占めている。近年は中国、香港向けが減少、替わって農業用パイプを中心に需要が旺盛なインドが最大の輸出国となった。輸入は約5千トンと僅かである。

塩化ビニル樹脂生産出荷実績

(単位：1000 t, %)

項目	2018年	2019年	前年比 (%)	
生産量	1,643	1,689	103	
出荷内訳	硬質用	558	544	97
	軟質用	251	242	96
	電線・その他	244	245	101
国内出荷	1,053	1,031	98	
輸出	571	666	117	
総出荷量	1,624	1,697	105	
月末在庫	160	152	95	

塩化ビニル樹脂需要構成（2019年）



〔出所〕塩ビ工業・環境協会

2. 塩化ビニルモノマー

2019年の塩化ビニルモノマーの生産量は、270万5千トン（対前年比101.3%）、総出荷量は269万2千トン（同101.7%）であった。総出荷量の内訳は、PVC（塩化ビニル樹脂）用171万7千トン（同102.6%）、その他用7万4千トン（同99.4%）、輸出用は90万トン（同100.0%）、主要輸出先は中国（48万5千トン）、フィリピン（12万6千トン）、インドネシア（6万5千トン）、台湾（6万トン）で全輸出量の約80%強を占めている。輸入はない。

塩化ビニルモノマー生産出荷実績

（単位：1000t,%）

項目	2018年	2019年	前年比 (%)	
生産量	2,670	2,705	101	
出荷内訳	PVC用	1,673	1,717	103
	その他用	75	74	99
	輸出用	900	900	100
総出荷量	2,648	2,692	102	
月末在庫	46	35	76	

[出所]塩ビ工業・環境協会

3. 塩ビの動向

2019年の国内出荷量が若干マイナスとなったものの、100万トン台を維持したことに加えインド向けを中心に輸出が好調であったことから生産量は前年比プラスとなった。

国内出荷については、塩ビの需要の多くを占める建築・土木分野において住宅着工件数が前年の94万戸から91万戸へと減少、消費税率の引き上げ等マイナス要因があったものの、雨樋、食品用フィルム、レザー等の出荷が好調で大幅な減少には至らなかった。

塩ビの輸出は、過去、中国が最大の仕向国であったが、2014年以降は中国国内の生産能力増加に伴い減少し、替わってインドが最大の仕向国となり、近年はベトナム、タイの需要が旺盛になってきている。

2019年のアジア需給がタイトに推移し輸出が好調であったことから国内製造設備はフル稼働に近い状況となった。

4. 今後の見通し

2020年になって新型コロナウイルス感染拡大の影響が塩ビ産業の需要にも顕在化しつつある。2020年に開催が予定されていた東京オリンピックの関連需要は一段落した模様で、今後は2025年開催の大阪万博関連需要が期待される。都心部の大型都市開発や駅ターミナル工事、政府の「防災、減災、国土強化の為に3ヶ年緊急対策」によるインフラの維持・更新のための公共工事などにより管材、電線被覆材、床、壁等内装材の需要に期待したい。

海外ではインド、ベトナム、タイで塩ビ関連製造設備の新增設計画がほとんど無いことから輸入に依存する状態がしばらく続くと予想される。2020年は新型コロナウイルスの拡大により需要の下押しが生じているものの、建設工事関係の進展と共に潜在的な需要が塩ビ需要を支え輸出量の増加に期待したい。

■ 随想

◇ヨルダン・ハシミテ王国旅行記（9）

ーヨルダン・ハシミテ王国いろいろ（その1）ー

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

【左ハンドル】

ヨルダン・ハシミテ王国は、日本とは逆で車は右側通行。

当然、ハンドルは“左ハンドル”です。

走っているのは、ほとんどが日本製の車両。

新車もありますが、乗用車もバスやトラックなどの商用車も、日本の中古車が大部分を占めています。

ところが、ヨルダン・ハシミテ王国の法律では、日本の“右ハンドル”車両の輸入は認められていません。

なぜ、日本の中古車がヨルダン・ハシミテ王国に輸入できるのでしょうか？

鍵を握るのは隣国、サウジアラビアです。

日本から輸出され、船積みされた中古車は、サウジアラビアの港で陸揚げ。

そこで“左ハンドル”に改造され、陸路、国境を越え、ヨルダン・ハシミテ王国に輸入されるのです。

えっ？ そんなに簡単にハンドルの位置を変えられるのかって？

簡単に変えられます。日本の車、設計段階から日本国内だけでなく輸出することを前提に設計されているので、ハンドルやアクセル、ブレーキなどは左右どちらにでも付けられるようになっているのです。

日本の中古車でも、“左ハンドル”用の部品さえあれば、すぐに変えることができますし、日本の自動車メーカーも、そのための部品を、世界中で販売しています。

【ソーラパネル】

ヨルダン・ハシミテ王国、この季節（9月～10月）は乾季に当たるため、連日、雲ひとつないいい天気が続いています。

テレビの天気予報でも、この先、ずっといい天気が続くようです。

砂漠地帯をウロウロしているためか、日本で「どうして砂漠で太陽電池発電をしないのだろうか？」と聞かれます。

確かに、これだけいい天気が続き、雨はほとんど降らないとなると、太陽電池発電にうってつけ、ではないのです。

「砂漠 = 砂まみれ、砂だらけ」

そう、ソーラパネルを設置しても、翌日にはパネルが砂まみれになって、発電能力が一気に低下します。

マメにパネルを掃除すればいいかもしれませんが、乾拭きでもしよものなら、パネル面を紙やすりで削っているのと同じで、すぐに傷だらけになり、やはり発電能力が大幅に低下します。

砂漠地帯なので、毎日、水洗いという訳にもいきません。

このため、太陽電池発電、あまり砂漠地帯には適していないようです。

【定住化】

砂漠と言えばラクダと遊牧民。これが私のイメージでした。確かに、数十年前、初めてサハラ砂漠を訪問した時は、多くの遊牧民、ベドウィン族の人たちと出会うことが出来ました。ところが、いまでは物資の輸送はラクダからトラックに変わり、以前は曖昧だった土地の所有意識が強くなり、遊牧民が自由に往来し、キャンプを設営することが難しくなりました。ヨルダン・ハシミテ王国政府も遊牧民の定住化を進めているため、いまでは実際に遊牧しているのは数家族のみになってしまったそうです。

定住化した遊牧民、政府が用意したコンクリート住宅に住む人がほとんどですが、遊牧はしないけれど、用意された土地にテントを張って生活している家族もいます。テント内は遊牧していた時とほとんど変わりなく、必要最小限の家具のみ（カーペットとクッション、お茶を入れるための炭火かまど、ランプ程度）。但し、テントと言っても電気、水道完備。テントの中でともされているランプの明りはLED電球。液晶テレビで数十チャンネルの衛星放送を楽しんでおられます。

【コーヒー】

砂漠地帯に行くと、飲み物は圧倒的に紅茶。それも砂糖がいっぱい入った、甘い甘いミントティーを出されることがほとんどです。しかし、街中では圧倒的にコーヒー。色が濃く、少し粉っぽいですが香りがいいアラビアコーヒーが主流ですが、ヨルダン・ハシミテ王国にもあのスターバックスが進出しました。既に、何店かのお店を展開しているようですが、若者に大人気だそうです。チキン好きなヨルダン人、ケンタッキー・フライド・チキンはすっかり日常生活に溶け込んでいますし、あと何年かすると、アラビアコーヒーは高齢者が飲むもの。若者はスターバックスでラテやキャラメルフラペチーノを飲む時代になるのでしょうか？

(続く)

次回は、(10) -ヨルダン・ハシミテ王国いろいろ(その2)-です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。